
御狐様のIS日和

あいあむウィーゼル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

御狐様のIS日和

【Zコード】

N7293Y

【作者名】

あいあむウイーゼル

【あらすじ】

女性にしか動かせないパワードスース「インフィニット・ストラトス」、通称IS。そんな中で世界初の男性IS操縦者、織斑一夏が発見されたというニュースに世界が揺れる中、女神達の学舎に1人の少年が現れる。彼の名は神崎玖楼。『世界最強』の高校教師であつた……。これは『魔法先生ネギま！ 御狐様が見てる』の逆転作品です。ついでに言つと、これは作者が書きたいと思った自己満足要素が詰まっていますので、タグを見て「無理だ」と判断された方はお帰りください。

第1話・新世代型“疑似”子供先生、IIS復活（前書き）

えー、前置きもなくやつちまいました。

「御狐様」のIIS版。つまり、逆転版です。

御狐様ではネギまを舞台にしていましたが、こつちでは逆です。IISを舞台上に頑張って貢います。

玖楼のイメージはあつちと同じですが、その最強さがパワーアップしております。

ちなみに、私がイメージする最強教師は「等身大の光の巨人」と称されるあの人はです。あそこまで何もかも力尽くでぶつ飛ばしませんが、それくらい強いのでご注意を。

第1話・新世代型“疑似”子供先生、ハリヒ復活

やあ、ボクは神崎玖楼。ハリヒ普通の専業主夫だ。

「そなたを『普通』と形容すれば、間違いなく常識が破綻するじやろうな」

「うつむき、そこ黙れ。

ソファに寝転んだままの妻、瑪瑙にうつしき口みつとも、手を休めない。

ちなみに、今日のハリヒ飯は鶏ムネ肉の竜田揚げ。

ムネ肉は安いんだけど、パサついて美味しいくない。そこで調理の前にサラダ油につけ込んでおくのがポイントだ。ハリヒする事でパサつきが無くなる。

醤油とお酒、それから擦ったにんにくを合わせたタレで下味を付け、小麦粉をまぶしてカラッと揚げる。

「ほり、出来たよ」

「うむ」

瑪瑙が立ち上がると、椅子に座る。

「ボクも出来上がりつたばかりの『じ飯』をテーブルに並べ、同じく椅子につく。

「ところで玖楼。就職するところのは本当か？」

「耳が早いね」

就職といつよりも、復職に近いかな。

数年前まで教職に就いていたボクだけども、数年前のとある事件で怪我をして以来、療養中。

怪我 자체はもう癒えてるから、復帰しようと思えばいつでも復帰出来るわけだけど。

もちろん年単位で遠ざかる事は分かっていたから、前の職場には自主退職という形で辞めた事になつていて。

「最初は断りうと思つたんだけど、内容が内容だからね。それに纏木さん直々に頼まれやつたし」

「……纏木、じゃと？」

「や、纏木十蔵さん」

IS学園の学園長…………もひりん、表向きの学園長は轟木さんの奥さん
さんが務めている。

普段は気のいい用務員として表に立っているから、本当は彼が学園のトップにいる事を知っているのは、教員や関係者ぐらいって事だ。

で、その轟木さんがこの前訪ねてきたんだけど…………。

「復職、ですか？」

田の前の男性、轟木さんから持ちかけられた話に、思わず尋ね返してしまつ。

「ええ。お願ひ出来ませんかね」

「…………しかし、何で自分なんですか？ 言っちゃなんですかけど、
IHS学園でしょう？ だつたらIHSに携わる人間…………うちの妻のよ
うな人間がいいはずです」

「…………正直に言つとだけど、瑪瑙は絶対人に物を教える立場には向
かない。

ボクは確かにIHSの知識は多少あるけども、実際にIHSに乗れるわ
けではない。

だから教えられる事と言えば、普通の中學で教えてるようなカリキ
ュラムぐらいで…………。

「だからこそ、ですよ。…………IHS学園はIHS操縦者を育成するた
めの教育機関です。教育内容もIHSに関連する事に偏つてしまいま
す」

「…………まあ、それでちょっと前に叩かれてましたしね」

基礎学力の低下。IHS学園に関する事だけでなく、全国的にも問題
となつてている。

特にIHS学園は今、櫻木さんが言つた通りに教育内容が偏つてゐる
ために、普通校と比べて基礎学力の平均が低い。

でも、その事にしたってわざわざこいつやって主夫してるボクを引っ張り出さなくとも、そっち方面でやり取りして普通教師を回してもらえばいいはず。

「…………要するに、それだけじゃないくつて事ですか？」

「相変わらず、察しがいいですね」

「いえいえ」

「こやかに応対しつつ、轡木さんは何かのファイルを取り出した。どうやらこれを見込んで欲しいらしい。受け取ると、それに挟まれていた書類に目を通す。…………あれ、この子って」

「織斑一夏…………織斑千冬君の弟さん、ですよね？」

「おや、こ存じでしたか」

「元教え子の家族くらい憶えてますよ。それに彼女はちょっと特殊でしたから」

織斑千冬の名を知らぬ者は、この世界でも少ないだろう。

IISの国際大会『モンド・グロッソ』。その第1回大会で、たった一本の剣を手に、世界の頂点へと上り詰めた少女の名前だ。

ブリュンヒルト

世界最強とまで呼ばれた彼女だったが、3年前の第2回大会、個人競技の決勝戦を突然放棄。その後、現役から引退したと聞いている。

実を言つと、ボクは彼女の中学時代の担任だったのだよ。驚いた？

「しかし、どうして一夏君が出てくるんです？」

「先日、HS学園の入学試験が行われました。その場で彼は試験用に運び込まれていた機体を起動させたのです」

「…………すみません。もう一度いいですか？」

「織斑一夏君は、世界で初めて発見された男性HS操縦者、というわけです」

…………おおう。もう読めた。

内心ため息を吐きつつも、もう一つの仕事について口にする。

「護衛ですか

世界初の男性HS操縦者となれば、世界中からの注目を浴びる。

そうなれば、今後の彼の生活が脅かされる。どつかの研究機関に送られてホルマリン漬けか、モルモット扱いか（まあ、そんな事した

ら織斑君（姉）の怒りを買つだらうから、表立つて動いたりは出来ないと思つけども。」

少なくとも、今までの通りの平穏な生活は出来なくなる。そのための救済策が「IS学園行き」というわけか。

「本当なら、生徒に潜り込ませる事が出来ればよかつたのですが……」

「思春期の男子には辛いことひがあるでしょ？」

同年代の女生徒に囲まれ、冷や汗を流す彼の姿。

リアルにそれが想像出来てしまい、思わず苦笑してしまう。

世の男性方からすれば、リアルでハーレム状態なので羨ましいにも程があるだろ？（女子校の実態なんてそんなもんじやないけど）。

それでさらに女生徒を側に置くというのは問題がありすぎる。主に彼の精神面について。

「それで自分に白羽の矢が立つたわけですね？」

「ええ。腕の立つ人物で、尚かつIS学園に入る事の出来る男性……該当するのは君くらいでしたから」

そりゃあね、昔つからちゅうと荒つぽい事とは縁があつたから、腕には自信がある。

……でも、それだつたら轡木さんがやればいいじゃないですか。

「いえ、私も年ですからね。さすがに昔と比べると毎ひつけに身体が動かないわけですよ」

年は取りたくないものですね~、と言いつつもお茶をすする轡木さん。

嘘つけ、と言いたくなつたけども、お茶と一緒にそれを呑み込む。

画面の向こうのみんな、考えた事は無いかな? どうしてこの人が、護衛も付けずにボクの家にまで一人でやってきたのか。

確かに、この人が実質的なIIS学園の経営者だという事を知つている人間は限られる。でも、知つてゐる人は知つてゐる。当然、狙われたりする可能性だつてある。

それなのに何故、護衛を付けないのか。その答えはシンプルイズベスト。「必要無い」からだ。

たかが暗殺者の1人や2人、この人なら.....轡木十蔵なら、赤子の手を捻るようにしてしまつだらけ。

「まあ、それはさておき、どうでしょつか?」

…………復職する事自体はそこまで問題じゃない。

今のボクはあくまで専業主夫だし、復職出来ないという状況ではない。

でも、復職せずともいい。実際、瑪瑙は高給取りだから生活には困つていなかり。

要するに、「どちらを選ぶにしても問題は無い」のだ。

(…………でも)

実はまだ、引っかかっているところがある。

織斑一夏君がIIS学園の入試会場にて、IISを動かしたという事実。

資料によると、同日に藍越学園の入試も行われており、どうやら彼はそつちを受験するはずだったようだ。

単に会場を間違えて、それでたまたまIISが設置されていた部屋に迷い込み、たまたまIISに触れてしまった事が発端。そう考えれば楽だけど、そこまで偶然が重なるものなのか。

そもそも、IIS学園の受験者は女性だけ。同年代の男性がいたら、受験者なりスタッフなり誰かが「会場間違えますよ」と声をかけるはず。それにIISが保管されているとなれば、警備だつて整つて

いる。15歳の少年が近づけば、誰だって不審に思つ。

そしてEISを起動させたのがミソだ。たまたま動かせる“何か”があつたとも考えられるが、他にも『誰かが細工していた』とも考えられる。

これらの状況を作る事が出来る存在に、ボクはたった1人だけ心当たりがあつた。

「…………分かりました。その話、お引き受けします」

「…………なるほど、あのウサギか

竜田揚げを口へと運びながら、そつそつと瑪瑙。

彼女がウサギと形容する相手、それはエスの生みの親……篠ノ之束博士の事だ。

エスの中核とも言える「エスコア」は、今も尚ブリックボックスとされており、完全に解析されていない。

何故、男性には動かせず、女性にのみ動かせるのか。

エスコアにこそ、その謎があるとされているが、……真相を知るのは篠ノ之君だけ、というわけだ。

「織斑一夏君の事が全て彼女の仕業かどうかは分からぬけど、疑わしいのは事実。……それに」

「それに？」

「…………うん、何でも無い」

まあ、轟木さんの話を受けたのはその事だけじゃない。

教育者として、やつぱり学力低下問題は見過しがせないって感じもあつた。

自分一人でどうなるか分からぬけど、無為に日常を過ぐしてゐるくらいなら、少しくらい職場復帰してみようと思つたわけだね。

「それに、それなり彼の事も隠しきれなくなつてゐるだらう。……

…」

委員会からマスコミに圧力をかけているとまでは言つても、限界がある。

人の口には立たれない。どこか隔絶された場所ならともかく、判明した場所は一般人も踏みに入る入試会場。

ボクの私見だと、明日明後日辺りには報道されるんじゃないかな？ どちらにせよ準備自体は整つてるわけだし、抑え込む必要もそろそろ無くなつてぐるのだから。

「…………しかしHIS学園となると、そなたは向こうに住み込む事になるじやない？」

「まあ、そうなるかな」

学生寮に住むわけにはいかないし、適当などヒントでも張ろうかと思つてたけど。

さすがに、家から通り抜けようと遠すぎる。片道何時間かかると思つ。

そんな事を考へていると、突然瑪瑙が悲痛な叫びを上げる。

「妾はこれからどうやって生きていけばいいのじゃー？ 誰に食事

の支度してもいいやばい?」

知るか。

……なおその後、どうやら職場に住み着いたらしく、定時連絡の時には上の娘^{いはく}と下の息子^{きそい}の引き攣つた顔を見る事となつた。

とりあえず「めん。果てしなぐ」「めん。

第1話：新世代型“疑似”子供先生、ここに復活（後書き）

IS関連で考えてたネタ

1．ISで復讐モノ

主人公が「白騎士事件」で家族を亡くし、復讐を誓つお話。既に似た話がありますし、書いちやうと矛盾する部分が出てくる+よくあるアンチ物になっちゃうかなと思ったので、書くのをやめました。

2．IS×仮面ライダーOOO

一夏を映司のポジションに置いて、原作開始の1年か2年前にオーブとして戦っていた過去捏造モノ。

誘拐事件がきっかけで、映司と似た様な「乾いた」状態になり、どことなく千冬ともギクシャクした関係が続いていた中でアンクに遭遇。已む無くオーブに変身して戦う事に。

鴻上ファウンティーションがオーブのシステムを再現したISを開発。白式でなくそつちに乗る事に。

ヒロインは鈴、もしくは口奈。後に打鉄式式をバースのシステムで完成させる話を考えてました。

仮面ライダークロスだと需要があるか不明だったので、ネタとして1話だけ書いたものが存在します。

3．「BAD END」を練り直した話

誘拐事件がきっかけで、千春の影の人格「千影」が誕生。

千影は「千春を傷つけた」千冬達を嫌うが、千春が抱く千冬達への愛は変わらない。

オリキャラを減らして、束を若干常識人化。束を千春と千影の理解者に。

これはこれで面白いかなーと黙つてしまはずナビ、やつぱり無理があるかなーと思つてます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7293y/>

御狐様のIS日和

2011年11月21日18時01分発行